

大垣市金生山化石館

化石館だより



今回は、金生山化石研究会の会員で金生山化石館の前館長であった橋本秀雄氏から寄稿いただきました一文を紹介します。

コラム

生きた化石「メタセコイア」発見の物語

皆さんは生きた化石「メタセコイア」を見たことはありますか。実は大垣に立派なメタセコイアの街路樹があるのです。三塚町のソフトピアジャパン（写真右）の周りにそびえ立っています。では生きた化石が何故私たちの身近にあるのでしょうか。

昨年はそのメタセコイア発見から75年、現生種の生存発表から70年の年でした。また本年、安倍首相が年頭所感の冒頭に「わが国のたちなほり来し年々に あげぼのすぎの木はのびにけり」という昭和天皇御製を引用されて注目されましたが、その「あげぼのすぎ」はメタセコイアの和名なのです。この生きた化石「メタセコイア」の発見に岐阜県も貢献をしていました。

昭和16年(1941)、京都帝国大学講師の三木茂博士（写真右：大阪市立自然史博物館提供）が「メタセコイア」属を提唱しました。

当時、博士は各地の新生代後期の植物化石を採集し、いくつかの新種を発見するなど精力的に研究しており、ヒノキ科の小枝と球果（松ぼっくり）の化石に疑問をもっていました。従来、ヌマスギかセコイアとされていたものが、ヌマスギとするには葉が互生になっておらず、セコイアとするには球果が螺旋状になっていないのです。西欧の学者はそれでも同じ種と考えましたが、植物に



詳しい三木博士は、変異にしては大きすぎるとして、別の植物と考えました。

それを確認するためさらに保存状態のよい化石を各地に探しました。その結果、よい標本の一つが岐阜県土岐市で見つかりました。土岐口陶土層から出た小枝の化石（写真左：大阪市立自然史博物館提供）です。それは一千万年近くも経っているとは思えない生々しいものでした。確かに葉は対生しており、落葉した小枝と考えられました。博士はその化石にメタセコイア（*Metasequoia* : Meta とは「後の」の意）という新属を設定し、2種類のメタセコイア（*Metasequoia disticha* (Heer) Miki、*Metasequoia japonica* (Endo) Miki）を記載し発表しました。

ところが奇しくも同じ年に、中国の奥地で謎の大木（写真：斎藤清明氏撮影・提供）を見掛けた人がいました。その報を受けて樹木の調査をし、標本を採集したのは林務官王戦氏で、昭和 18 年(1943)6 月のことでした。王氏はヒノキ科の水松と考え、標本を国立中央大学鄭万鈞教授に届けました。

教授は新属の植物と見抜き、静生生物学研究所の胡先驩博士に意見を求めました。胡博士は三木博士が発見した化石のメタセコイアと同一の植物であると確認したのです。

昭和 21 年(1946)、胡博士の報告は世界を驚かすニュースとなりました。100 万年前には絶滅したとされていた植物が生き延びていたのです。

昭和 23 年 (1948)、胡博士と鄭教授は先に化石植物として三木博士が提唱した属名を尊重し、メタセコイア・グリプトストロボイデス (*Metasequoia glyptostroboides* Hu et Cheng) と名付けました。

この発見に素早く動いた人がいました。アメリカのハーバード大学メリル博士とカリフォルニア大学チェイニー博士です。メリル博士は胡博士の恩師で三木博士からの論文を手にしていたため、胡博士もメタセコイアを知ることができたとされています。しかも昭和 22 年(1947)、メリル博士は胡博士に資金を提供して種子を送ってもらい世界 76 の研究機関と研究者に贈っています。その一つが東京大学原寛教授に届いて、現在、東京大学理学部附属植物園で大きく育っています。



中国湖北省磨刀溪で発見されたメタセコイア：1988 年斎藤清明氏撮影

チェイニー博士は胡博士とは中国の新生代植物化石の共同研究者であり、やはり胡博士からの報告を受け、昭和 23 年(1948)、自ら中国に赴いて調査をしています。さらに持ち帰った種子をもとに苗を育て、メタセコイア保存運動を行っています。日本へは生物学者としても有名であった昭和天皇に苗と種子を献上し、移植された苗は皇居で大木に育っています。昭和天皇はその「アケボノスギ」をことのほか好まれ、生育の早さと日本の戦後復興を重ねて先の和歌を詠まれたのです。

またチェイニー博士は発見者である三木博士に保存を呼びかけ、設立された保存会（会長は三木博士の先輩木原均京大教授）へ 100 本の苗を贈っています。保存会は挿し木で苗を増やすとともに全国の大学や研究機関などに提供し、一般にも安価で配布したため、日本ではメタセコイアが非常に普及しました。

ソフトピアジャパンのメタセコイアは写真のように冬は葉を落としています、夏には葉を茂らせ、三角形の端正な姿になります。秋には実もつけます。この物語を思い出しながら折にふれて観察を試みてください。
(2017,1,31 金生山化石研究会会員：橋本秀雄)

<参考文献>

『メタセコイアと文化創造』OMUP ブックレットNo.53 2015 岡野 浩・塚腰 実
「メタセコイアと天皇の戦後史」『中央公論』中央公論社 1989-3 斎藤清明

問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)
Email kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp